校長室だより R4.12.6

もう 12 月です。年末の慌ただしさが感じられる頃になりました。前に松山市教育研究大会において小野中学校で「総合的な学習の時間」の研究発表がありました。その中で、松山市のSDGsの出前講座がありました。松山市エコリーダー百済里美さんの未来のためのSDGs「森林と防災」のワークショップ体験でした。

冒頭に「どんぐりは何種類あると思いますか。」という質問がありました。百濟さんの話では、約130種類あり、そのうち、松山城には22種類あるそうです。

どんぐりと言えば、1年生が生活科で使うどんぐりを 電車に乗って採りに行きました。最初に聞いた時は、電 車で?と思いました。しかし、確かに本校のように1学 年の人数が多いと、生半可な所では、どんぐりの量が足



りません。一般の方が入らない所で、大きなどんぐりの木が何本も生えている所でなくては、どんぐり拾いができないことになります。かと言って、どんぐり拾いを宿題にすると、取れる所はそんなにありませんから、早い者勝ちになってしまいます。宿題ができないと悲しむ子をつくってしまいます。

10月に、学校林を視察に行く機会がありましたが、その道中、どんぐりは落ちては いませんでした。時期的には、どんぐり拾いに行った時期でしたので、落ちていても 不思議はなかったのです。学校に帰って、どんぐり拾いができる所を見つけたと報告 しようと内心思っていたので、こんなに自然が豊富な小野の山でも無いのかとがっか りしました。緑が多くても限られた所でしか採れないのです。では、どんぐりの木は どこに生えているのでしょうか。九州から東北にかけての山地は、ブナ類とミズナラ が優先するそうです。人の影響が加わった二次林ではミズナラが多く生存します。そ の中間的な地域では、クリが優先する森林も広く見られます。このように、日本の自 然林は、占有面積から見ても質量的に見ても、ブナ科樹木の王国です。自然林では、 どんぐりの木が幅を利かせているはずなのです。では、どんぐりがないのは、どうし てでしょう。小野の山にしても、人の手が入っているということです。いわゆる人里 の近くの山は里山であって、自然林が少ないということです。11 号線沿いの街路樹が、 マテバシイの所があります。常緑樹なので街路樹として植えられているのでしょうか。 そこは、この時期になると、車道側の溝にも鉄砲の玉のような形のどんぐりがころこ ろ落ちています。どんぐりが植林されていれば、あるのです。私の家の近くの生垣に、 小さいどんぐりがなっています。聞くと、ウバメガシという木だそうです。小さな葉 が密生し、剪定にも強いため、生垣や庭木に利用されています。

「どんぐりは、食べられるの知ってますか。」という質問もありました。どんぐりは長い間人間の大切な食料でした。今となっては、稲作が始まり、味のおいしいものがたくさん増えて、食べなくなりました。もちろん、野生の動物たちにとっては、今もなくてはならない重要な食物です。会場では、「昔、しいの実を炒って食べた覚えがある」という話がありました。

私の家では、子どもが学校に持っていくために拾ってきたあのウバメガシが、芽を出し、4mを超える我が家のシンボルツリーになっています。